

AED使い方「こうして」

市立室蘭総合病院(渋谷均院長)で22日、救命講習会が行われ、同病院麻酔科部長・救急センター長の下館勇樹医師が室蘭・海星学院の1、2年生18人に心肺蘇生法や自動体外式除細動器(AED)の使い方を指導した。

下館医師はAEDによって一命を取り留めた事例などを紹介。生徒らは人形を使って意識や呼吸の状態を確認し、胸骨圧迫と人工呼吸を繰り返す心肺蘇生を体験し、医師から「胸をもつと強く押して」とのアドバイスを受けていた。

AEDの使い方では下館医師は「心臓に電気ショックを与えるかどうかは機械が判断する。必要ないと感じても使用することが重要」と強調した。23日の講習会は室蘭市職員を対象に開かれた。

(柴田圭介)

市立室蘭総合病院講習会、海星学院生に指導



下館医師の指示を受けてAEDの使い方を学ぶ生徒たち